

## 平成26年度第8回行政評価委員会

日時：平成26年10月21日18時30分～20時05分

場所：伊予市庁舎3階第3委員会室

出席者：妹尾克敏委員長、門田眞一副委員長、芳岡毅委員、西畑眞知子委員、曾根弘輝委員

事務局（坪内・小笠原・岡井）

傍聴者：なし

### 1 開会

会議の成立及び傍聴者はいないことを確認した。

### 2 議事

#### （1）審議事項

##### ①会議録の確認、報告事項

第7回会議録の確認を行った。前回の委員会における担当課から発言の誤りがあった内容について修正報告などを行った（会議録では修正後の発言内容を記載）。

また「下水道の布設（下水道建設）によりバキュームカーによる汚泥処理の量が減っているのか」という委員の質問について、

- ・都市計画区域外で整備したところに新設される場合は、処理量は増えない
- ・合併浄化槽は住人2人でも、最低5人槽が必要（人口減に対応しない）
- ・単独浄化槽から合併浄化槽への変更もあり、処理量は増える
- ・ウォシュレットの利用などによる処理量が増える
- ・合併浄化槽の抜き取りは年に1回必要

などの理由から、結果的にはあまり減らないものの、排水される水質はきれいになり、地球環境に配慮した事業であることへの理解を求めた。

##### ②外部評価結果の確認

（事務局）

お手元に平成26年度外部評価結果（平成25年度事務事業）という資料を配布している。No. 1からNo. 44（第2回から第7回）まで審議いただいた内容を記載している。外部評価の欄には、提案であるとか指摘された点であるとかの発言を拾い、記入している。各事業における質問については、会議録にて確認いただくことを考えている。確認はどのように進めればよろしいか。

(委員長)

基本的に、委員ご自身が発言になったところをご記憶だろう。それを中心にチェックしていただければと思う。それ以前に事務局で気になるところや不具合のところ、気付いたところがあれば、あらかじめ指摘いただいておりますかと思う。そういうやり方でいいのではないかと。

(委員)

今回、いわゆる縮小とか休止・廃止とかいう事業は具体的にはなかったか。

(事務局)

数件の廃止事業が外部評価に付されている。「幼児2人同乗自転車購入助成事業」「国際交流員招致事業」「交通災害共済事業」の3事業は、昨年度の行政評価で廃止の方向とし、26年度からは廃止となっている。たまたま25年度継続事業ということであり、特に評価は頂いていない。

長寿介護課部門の「地域支え合い体制づくり事業」「地域ケア会議立ち上げ支援事業」の2事業については、県費の単年度補助が付いたため事業を行ったという内容であり、廃止と判断するにはそぐわない事業という判断で説明のみとしている。

また、庁舎建設課の所管である「中山地域自治支援センター建設事業」「総合保健福祉センター建設事業」についても、25年度は外構の整備あるいは建設中のひび割れ等に対する補償という軽微な事業をもって、事業完了による廃止ということであったので、報告のみに留めている。

縮小、廃止かどうか判断する基準として委員の意見を頂くという内容のものはなかった。

(委員長)

お気付きの点があれば、順次ご発言を頂きたい。

(委員)

一から全部をもう一度見直すかどうかは別として、気付いたところを言えばいいと思う。個別の事業はもう少し見てみたいと思う。外部評価で25年度事業を審議してほしい、あるいは委員が抽出すべきということでやってきたのだが、全体的・総括的なものは委員長の言葉として必要ではないか。

この行政評価は、何年くらいやっているのか。

(事務局)

平成19年から始まり、8年目になろうかと思う。

(委員長)

そうだろう。平成19年からだったと記憶している。

(委員)

行政評価の総論について。全国的にそれぞれの市町村が行政評価をやっており、伊予市も8年間やってきて、一定の効果は上がっているのかなと思う。そもそも今までは予算を出して、議会で審議して決定する。事業をやって決算結果が出てくるのだが、その決算結果がどうなっていて、効果や効率がどうなのかという評価もなく、翌年度の予算に反映されていた。それが90年代くらいから、行政評価やパブリックマネジメントなど取り上げられるようになってきた。やはり次の施策や翌年度の予算にどう反映していくか、PDCAというサイクルを確立しないとイケない。

それに伴い、今度はその精度を上げていくことも必要である。シートの記述に関しても改善しなければならない部分もいくつかあった。また木を見て森を見ずのようなどころがあって、細部に入りすぎて、全体として何を目的として、どういう効果を狙っているのかが見えない事務事業もあった。だから職員の意識改革も含め、作り方や改善点があれば検討いただきたい。

もう一つ、事業シートから決算とか国の予算とかにつなげる際に、我々は第三者的に見ており、市民がそのプロセスに参加し、知って理解を高めていくという、分かりやすい参画と協働を進めることが必要である。そのために何をしていたかといかないか。

1年間やってきた中でも課題はあると思う。個別の外部評価が次に活かされないという意味がない。

(委員長)

外部評価結果シートの前に、概括的な、総論的なものが必要ではないかということだろう。

(委員)

お見込みのとおりである。26年度も何項目かやり、個別問題もある。何かあったらいい気がする。

(委員長)

今までは、委員長の名前を最初にさらす際、あいさつ文程度のものが付いていた。

(事務局)

当初19年度は試験的運用であり、外部評価として上がっていない事業（委員抽出事業）でもって、提言という形で報告されていた。2年目以降は各部長の配慮により、各部1、2事業ずつ外部評価に上がってきており、その外部評価を行っていただいた。その際、制度導入に関して職員も不慣れなところがあった。

たので、その書き方や共通認識を増やしてほしいという総括した意見を上げていただいた。昨年がどのような形の結果になっていたかは分かりかねるが、その総括した意見は、市民あるいは学識経験者の方々の意見ということなので、あって然るべきと思う。経営者会議等を通じ、経営者（市長、副市長、教育長及び部長）に伝えてもいいと思う。

(委員長)

特別に書いた記憶はないが、とびらというか鏡の文書はあった気がする。こういう経緯で今年度はこれだけやりましたということだったかもしれない。ただ委員会の性質上そこまでだろう。これまでの担当者の記憶も含めて確認をお願いする。

(事務局)

了解した。調整した内容にて報告する形を取らせていただきたい。

(委員)

そういうことであれば、お願いする。

(委員長)

本題に戻る。各シートの外部評価という欄に、委員の皆さんそれぞれが指摘いただいたご意見、場合によっては提言がずいぶんある。お目通しいただいて、この書き方は主旨が違うとか、あるいは不正確であるというところがあれば、この際ご指摘いただいて修正の機会をいただければと思う。

今年度明確に記憶しているのは、担当課（原課）にご臨席いただいたのだが、下水道課においては説明にならない説明がだいぶあり、ちょっと気になった。行政評価委員会の席上で、担当課が改めて説明したり、委員からの質問に答えたりするのは、当初予定していない余分な仕事だったかもしれない。ただ、そういう意味では、時間と共に意識は深まりつつあるのだろうと、私は前向きに捉えた。

(委員)

確かに当初原課からの説明はなかった。その点は、私は改善されたなと思う。我々は選ばれた議員でもなんでもない。いわば一般市民として、第三者的な市民目線から見てどうかという意見を述べるだけである。それに対し、行政の担当者が説明責任をちゃんと取る。当然のことかもしれないが、我々が分からないことは多分一般の方も分からない。そういう目線が大事だという意味合いをぜひご理解いただきたい。

(委員長)

おっしゃるとおりである。

(事務局)

個人的な見解としては、ここに臨席いただき説明することにより、ただ書いただけの仕事ではいけないぞという意識を持たれる方は確実に増えているという認識はある。そういう方が翌年度、昨年度に比べると説明についても気を配っている事例も出ている。負荷はかかっているけれど、改善にはつながっていると意識している。

(委員長)

かなり温度差はあるけれど。この行政評価委員会というところで外部評価をやっているという意味合いは、そこで最終的には担保できていると思っている。

気になる表現、表記があれば、お分かりになっているレベルで教えていただければありがたい。

(事務局)

よろしければ、1事業ずつ事務局で読む形を取り、その時点で気になった意見があれば発言いただくということでいかがだろうか。

(委員長)

ではお願いします。

(事務局)

それでは、早速No. 1から順番に読み上げていく。

(No. 1からNo. 44まで読み上げ。読み上げ中、委員の発言なし。)

(委員長)

ありがとうございました。全てを音読していただいた。誤字脱字は修正できると思う。以上で見えていただいたこととなるのだが、いかがだろうか。

濃淡さまざまではあるけれど、これで体裁を整えて議会に提出することになるのだろうと思う。

(事務局)

今後の進め方である。事前に第1回経営者会議を開催している(10月10日)。そのときには、特に重要な施策、課題があると認識している事業について議論を行った。そこで、継続して進めるべきという内容についても、25年度の内容を振り返るのではなく、現時点と照らし合わせ、早急に対応しないといけない内容については対応すべきという認識の下、方針が出ている。

この外部評価結果については、11月4日の第2回経営者会議並びに11月7日の第3回経営者会議に提示し、審議いただいた上で、最終的な事業の方向性の決定や、修正すべき課題についての指摘をしてもらう。それらをまとめ、体裁を整えた後、12月議会で報告するという段取りとなっている。

(委員長)

なるほど。いかがだろうか。ご自分の発言とか、指摘と全く違うというものがあれば問題であるが、そういうものがなければ、こういうコメントを付けて報告という事になろうかと思う。よろしいか。

(委員)

よろしいか。No. 44まで外部評価で摘出したものは、事務局案に加えて委員から大分上がった。要は主要な大事業がたくさんあるということである。結局合併した伊予市が、こういう事業を含めて、いろんな見直しをしていかないといけないということがはっきりしてきたのではないか。

伊予市の財政を見ると、普通会計が180億くらい。そのうち地方税（税金）として入ってくるのが38億、地方交付税が68億ほど。そこから支出をしていくのだが、問題となるのは、公共下水道や簡易水道、介護保険など、公営企業や特別会計への繰出金が約26億円、自主財源を放り込まないといけない。義務的な経費に加えてそういうものが増えてきている。今後地方交付税が増えていくことはあまり考えられない。一つの自治体としての交付税に見合うよう、合併10年後から算定替えも斬減していくだろう。それに合わせて、人口減や高齢化は税収減少の要因となる。そうすると3割自治と言われる自治体が自由に使えるお金は苦しくなってくる。だから、今までの事業を積み上げて、前例でそのままずっと続けるというのがいつまで可能かと思ってしまう。合併後10年経って、事業全体としても内部的にも問題はあるかと思うけれど、やはり優先順位を明確にして、どこに配分するという、はっきりしたものが必要だと思う。個々の事業の効率性やパフォーマンスも大事であるのだけれど、合併後の問題として建設事業も増えており、借金が増えるのも気になる。庁舎や図書館・文化ホールも必要だとは思っているのだが、70億の事業をやっていくということであり、今後の財政推移等々、しっかり考慮しながら事務遂行していただきたい。どこの自治体も大変だとは思っている。

(委員長)

ありがとうございます。そのほかないだろうか。外部評価結果に関して、どうしても訂正する、あるいはもう少し書き加える、削除するということがなければ、今の内容で確定し、先ほどから出ている意見については、鏡というか、最初の概括的な表現として盛り込むことにさせていただければと思う。そのために再度お集まりいただくというのも手間であるので、私と事務局にご一任いただければと思う。よろしいだろうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

(委員長)

ありがとうございました。合計8回にわたりご参集いただき、担当課とのやり取りも含めずいぶん熱心に外部評価を加えていただいた集大成がこの資料となる。今言う委員長名のところを含め、いつまでに進めればよろしいか。

(事務局)

経営者会議の最終を11月7日と予定している。評価結果の内容に大きな変更がないということであれば、この資料をもって経営者会議にかけることができる。冊子の作成は議会への資料提出も必要なもので、11月の第1週、経営者会議が終わるまでに文書等の体裁は整えたいと思う。

なお、外部評価に上がった廃止事業については先ほど説明させていただいたのだが、形式上外部評価に諮るとなっているので、結果諮ってはいないけれど、こういう決断となったというものを合わせて調製するというので、ご理解いただきたい。

(委員長)

そういう経緯でこうなったということだな。それで12月議会に、ということか。

(事務局)

お見込みのとおりである。

(委員長)

そういう予定になっているようだ。委員の皆さんもその辺おおまかに受け止めておいていただきたい。

## (2) 次回の委員会

(事務局)

これは相談である。本年で2年の任期を満了いただき、評価そのものは終了となるのだが、昨年も1月過ぎに事務事業をある程度ピックアップし、その中からこういう内容を評価すべきではないかと、事業を選択いただいた期間がある。次年度は新たな体制で行うのだが、その際、導入部分としてこういう事業を前任者から引き継いだという、そのような提案を頂けるのであれば、その内容を次回からの行政評価委員会に反映したいと思う。

(委員長)

なるほど。任期を終えるに当たり、後任の委員に申し送りをしておきたいことを含めてということか。

(事務局)

ご指摘のとおりである。

もう一点、25年度の行政評価はほぼ終わっているのだが、26年度事業については、基本情報を登録した状態であり、10月、年度半分を過ぎたので、これから中間評価を行う段階となっている。半年終わってみての振り返り、昨年あるいは今回頂いた評価結果を踏まえた上での改善策、また評価委員会で頂いた意見も含め、職員に周知する行政評価システム研修会を開催する予定としている。今までは行政評価の流れを中心に説明していたのだが、今回は書き方やそういう統一見解を中心に説明したい。シートに内容が反映できるかどうかは分かりかねるものの、事業選択の際に、資料でそういう反映が垣間見えるものができるかもしれないという希望的観測ではあるが、機会を頂けるのであれば、そのときに提示できる内容を示したいと思う。

(委員長)

事務局の都合もあるだろうが、年明けてからということだろうか。

(事務局)

昨年は1月の後半、落ち着いたときに行っているようである。

(委員長)

とりあえず12月議会に出して一段落しないといけないのだろう。

(事務局)

経営者会議の結果も踏まえた、25年度の結果についても合わせて報告をさせていただくという形にはなろうかと思う。

(委員)

任期はいつまでだろうか。

(委員長)

任期は年内ではなくて3月末までだろう。日程調整は後日ということよろしいか。前例を踏襲するのであれば1月下旬ということだな。ということで予定をしておいてよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

(委員長)

では、その方向でお願いします。

(事務局)

日程については、年の暮れ辺りになるかもしれないが、また文書等でお知らせさせていただきたい。



(委員)

最後の締めで、懇親会をやってはいかがだろうか。

(委員長)

会費制の懇親会か。事務局はまた大変だ。それも含めてちょっと。

(事務局)

こちら事務局でも相談させていただきたい。その際都合が合えばではあるが、市長、副市長も同席してよろしいか。

(委員)

そうだな、もしよろしければ。市長も任命した委員が本当に仕事をちゃんとしたか、していなかったか、行政評価ではなく委員評価。

(事務局)

総合計画策定審議会でも市長副市長を交えて開いた。2年の任期が終わるといふ時期でもあるので、都合がつけば調整したい。

(委員)

我々が発言したものを経営者会議にかけていただいている。そういう機会を作っていただくとうれしい。

(委員長)

日時、場所も含めて、とりあえず事務局にご一任申し上げる。市長副市長が嫌だと言えばそれまでである。今日予定していたことは全て終わった。いつもよりは短い時間であるが、長時間ありがとうございました。

### (3) その他

協議事項なし

## 3 閉会